



旅人（バックパッカー）が暮らす、旅人が読む、  
旅人のための旅ライフフリーペーパーマガジン

# BWALU

Vol.17

Photo(C) 加藤功甫





# Khaosan Tokyo Guest House

<http://www.khaosan-tokyo.com/ja/>

日本で海外の気分を楽しめる!

カオサン東京ゲストハウスは、東京、京都、福岡、別府に計8つの店舗を展開しています。  
国際交流をしたい! 安く快適に泊まりたい! 楽しくにぎやかに滞在したい方!  
観光、就職活動、一人旅等、あらゆるお客様に満足していただける宿泊施設です。



**TOKYO**

**NINJA**

1泊/2200円~

**ORIGINAL**

1泊/2000円~

**SAMURAI**

1泊/2500円~

**ANNEX & SMILE**

1泊/2000円~

**KABUKI**

1泊/3000円~

**KYOTO**

1泊/2000円~

**BEPPU**

1泊/2000円~

**FUKUOKA**

1泊/2400円~





# THIS IS YOUR BACKPACKER LIFE.

旅人の数だけ違った  
スタイルがあっという。

これはあなたのバックパッカーライフです。

バックパッカーで旅をするって特別なことですか？あなたは旅バカですか？  
もしアナタがクローゼットの中にあるバックパックに想いを馳せるなら「旅バカ」です。  
苦楽を共にしてきた数々の相棒を捨てられずにいるなら、間違いなく「旅バカ」です。

残念なことにそれは **不治の病** です。一度目は衝撃の印度  
2度目はうまくやれるナマステ 3度目はもう病気です！

バックパッカーの大好物, 最北端, 最南端, 最西端, 最東端, 赤道, 南北回帰線,  
洞窟, 離島, そして僻地, 辺境, 秘境, 越境…

**越境！** バックパッカーの妖しい与太話に散りばめられた真実、  
そして名もなき旅人たちが残し受け継いできた、  
数々のバックパッカー名言&格言。

「金の北米、女の南米、  
問題外のオセアニア」放浪 流浪 徘徊 ジプシー ノマド ボヘミアン etc...  
耐えてアフリカ、歴史のアジア、何もないのがヨーロッパ、  
行った国の数はそんなに大切なのか？ 世界一周って何ですか？ あのガイドブックの裏話。

## J-Backpacker styleの系譜。

それは『何でも見てやろう』から始まった。結論のでないあの愛しきバックパッカー論の数々。  
「日本人宿/ガイドブック/節約ピンボー旅/夜のパトロール」カニ族全盛期から時は刻まれ、  
いまやバックパッカー3.0 爺ちゃんも両親も旅人の3世代目バックパッカー出現！  
スマホ, Wi-Fi, LCC, ナチュラルボーン…デジタルネイティブで、ソーシャル・ヒッピーな

こちら側の世界へようこそ。  
バックパッカー新聞、  
創刊です。

デジモンバックパッカーが闊歩する時代の到来。  
旅は変わっちゃまったのかい？  
旅の環境や手法が変わっても、やっぱり旅は人  
との出逢いだ、やっぱり人が断然オモシロイ。  
わたしたちは、そんなバックパッカー現役OB/OG、  
そしてこれからバックパックを担いで旅に  
出る仲間のベースキャンプとなりたい。

Coming soon. 『バックパッカー新聞』 Published By Japan Backpackers Link 発行人 編集長 向井通浩





<広告>



「モロッコのグランド  
キャニオン」と呼ばれ  
るトドラ渓谷までのん  
びり徒歩30分で行ける  
日本人が経営するアッ  
トホームな宿。  
バルコニーからは一枚  
岩が眺められ、手前の  
畑にはアーモンドの  
木々が見え春にはサ  
クラのような花が咲き  
花吹雪を楽しむことが  
できる。

◆料金◆

宿泊代 70DH  
朝食 20DH  
夕食 50DH  
洗濯機使用料 10DH

◆設備◆

部屋数4室  
サロン  
大きめのバルコニー  
Wi-Fi  
シャワー室・トイレ共同

日本食もO・K

家庭的な  
小さな宿



◆住所・お問い合わせ◆

住所

Ait Ousalene Tizgui TINGHIR 45800 MARO

電話番号

+212(0)6 7040 4369

+212(0)6 5319 5219

モロッコ国内からは0653195219

E-MAIL

amande@hotmail.co.jp

詳しくはホームページで

<http://amandecheznoriko.web.fc2.com>



MOROCCO  
TODRA GORGE







# Http://brali.net

旅人（バックパッカー）が書き、旅人が読む、  
旅人のための旅ライフフリーペーパーマガジン

旅人は、旅をすることにより、その国や地域の人や文化に触れ、体験し、多様な価値観を知り、違いを理解し、享受することができます。  
また旅に出てみるのが、日本や居住地などの良し悪しや文化、社会、諸問題を見つめなおすきっかけになります。  
そんな機会と経験を無駄にせず社会に活かす旅人の可能性を信じています。  
旅人を増やし、旅に出る回数を増やし、旅に出る時間を増やすことを目的の一つとします。

そのためにも旅で得た情報や経験（インプット）を表現（アウトプット）する場と機会をメディアで提供し  
経験した人とは共有し、経験していない人へは追体験してもらいます。  
また旅での経験を社会に活かす（例えば仕事や起業あるいは社会貢献やボランティアなど）仕組みづくりを行ない Brali も社会に寄与します。

電子書籍

隔偶数月25日発行

記事・写真随時募集



# 旅

## を続けるために

ジーンサンになっても  
バーサンになっても



10月1日からリニューアルオープン！  
就職お祝い金制度開始！

海外就職  
あり



観光業も  
あり



アジア  
多数



バックパッカー専門の転活サイト

# Bral For Backpackers



旅に出ない理由、1. 金が無い 2. 時間がない 3. 帰国後仕事が無い  
1番2番は何ともいたしがたいですが、3番目を解決すべくバック  
パッカー専用の転職サイトを真面目にやっています。

バックパッカー 世界一周 求人広告

正社員 転職 海外就職

アルバイト 旅行・観光業

フリーアコモデーション 現地採用

## 世界初 日本発

# Http://job.brali.net





## CONTENTS

- 旅人からの伝言 特集「トルコ」
- トルコWIKI
- トルコTIPS
- トルコ観光の片隅
- 旅先の変な日本語
- エッセイ「旅トキドキ・・・」
- HANGOVER in the WORLD
- 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅
- 自炊派の手料理「サーモンのセビツチェ」
- エッセイたびたべ
- アジア漂流日記
- 作者・情報提供者一覧
- 編集後記
- 次号予告
- 記事募集



旅人からの伝言

# トルコ

Photo(C)snoopy\_hide

言わずと知れたアジアとヨーロッパを繋ぐ地、トルコ。  
親日国、旧跡名所などの世界遺産の数々、世界三大料理、と日本人からみても観光地として名高いが、まだまだ僕たちはトルコから遠すぎるんじゃないだろうか？





# ウィキ予習

✓ あらまし

首都はイスタンブールちゃうで

トルコ共和国（トルコきょうわこく、トルコ語：Turkiye Cumhuriyeti）、通称トルコは、西アジアのアナトリア半島（小アジア）と東ヨーロッパのバルカン半島東端の東トラキア地方を領有する、アジアとヨーロッパの2つの大州にまたがる共和国。首都はアナトリア中央部のアンカラ。

北は黒海、南は地中海に面し、西でブルガリア、ギリシャと、東でグルジア、アルメニア、イラン、イラク、シリアと接する。地理的にややこしいとこやなあ

✓ 人口

75,627,384人（18位）

✓ 面積

783,562km<sup>2</sup>（37位）

✓ 首都

アンカラ

✓ トルコってヨーロッパ？それともアジア？

トルコの国土の95%がアジアのアナトリア半島にあり、人口でもアジア側が9割弱を占める。首都アンカラはアジア側に位置し、最大の都市であるイスタンブールはアジアとヨーロッパに跨る海峡都市である。日本の公式見解では、中東の国として分類されている。また、歴史的にもセル

ジューク朝をはじめイラン（ペルシャ）やイラクの影響が強かった。欧米の多くの公用語がインドヨーロッパ語族であるのに対し、公用語であるトルコ語は、インドヨーロッパ語族ではなく東アジアでみられるアルタイ系言語である。しかし現代では経済的・政治的にもヨーロッパの一員として参加し、コペンハーゲン基準ではヨーロッパに分類されている。トルコ政府の公式見解では自国をヨーロッパの国としており、サッカー協会やオリンピック委員会などではヨーロッパの統一団体に属し、NATO、欧州評議会、西欧同盟、南東欧協力プロセス、南東欧協カイニシアティヴ、欧州安全保障協力機構（全欧安全保障協力会議の原加盟国）など諸々のヨーロッパの地域機関に加盟しており、ヘルシンキ宣言にも署名し、現在欧州連合（EU）へ加盟申請中である。





# ウィキ予習



トルコ人の親日はここから始まった

エルトゥールル号遭難事件（エルトゥールルごうそうなんじけん）とは、1890年（明治23年）9月16日夜半、オスマン帝国（その一部は現在のトルコ）の軍艦エルトゥールル（Ertugrul Firkateyni）が、現在の和歌山県串本町沖にある、紀伊大島の榎野埼東方海上で遭難し500名以上の犠牲者を出した事件である。この事件は、日本とトルコの友好関係の始まりと考えられている。

榎野埼灯台下に流れ着いた生存者の内、約10名が数十メートルの断崖を這い登って灯台にたどりついた。灯台守は応急手当てを行なったがお互いの言葉が通じず、万国信号本を使用して遭難したのがトルコ軍艦である事を知った[1]。通報を受けた大島村（現在の串本町）榎野の住民たちは、総出で救助と生存者の介抱に当たった。この時、台風により出漁できず食料の蓄えもわずかだったにもかかわらず、住民は浴衣などの衣類、卵やサツマイモ、それに非常用の二ワトリすら供出するなど生存者たちの救護に努めた。この結果、榎野の寺、学校、灯台に収容された69名が救出され生還することができた。その一方で残る587名は死亡または行方不明となり、大惨事となった。遭難の翌朝、事件は榎野の区長から大島村長の沖周（おきしゅう）に伝えられた。付近を航行中だった船に大島港へ寄港してもらい、生存者2名が連絡の為神戸港に向かった。神戸港に停泊中だったドイツ砲艦「ウォルフ」が大島に急行し、生存者は神戸に搬送、病院に収容された[1]。沖村長は県を通じて日本政府に通報した。知らせを聞いた明治天皇はこの遭難に大いに心を痛め、政府として可能な限りの援助を行うよう指示した。各新聞は衝撃的なニュースとして伝え、多くの義捐金・弔慰金が寄せられた。

**イラン・イラク戦争の時とか恩返ししてもらったんやで**



トルコ料理（トルコりょうり）は、トルコのトルコ民族の郷土料理であり、世界三大料理の一つである。

特徴として、

中央アジアの食文化である羊を中心とした肉料理

ヨーグルトやナッツ類を料理に使う

黒海、地中海などの海産物を利用する

冷菜には地中海周辺で取れるオリーブ・オイルを使用する（温菜にはバターが好まれる）

アラビア周辺からひろがった小麦粉とアジアの主食である米の両方を使うなど、東西の食文化を融合させた多彩な素材、味、調理法を持つことが挙げられる。

トルコの国内でも地域ごとに異なる特徴をもつ郷土料理もあり、例えば、北部黒海沿岸地域ではトウモロコシやアンチョビをよく使い、南東部ではトウガラシの風味が強いケバブ類を発展させており、西部では、特産のオリーブ・オイルの風味を活かした料理が多く、中央部の中央アナトリア地方では、パスタ料理が名高い。



# ウィキ予習

トルコの伝統料理ケシケキ(麦 1 カップ、鶏ささみ肉 2~3 本をさき、水たっぷり、塩を入れた麦粥に、30~50 グラムのこがしバターをかけた物)は、ユネスコの無形文化遺産に登録されている。



## 文化

トルコの国土は、ヒッタイト、古代ギリシア、ローマ帝国、イスラームなどさまざまな文明が栄えた地であり、諸文化の混交がトルコ文化の基層となっている。これらの人々が残した数多くの文化遺産、遺跡、歴史的建築が残っており、世界遺産に登録されたものも9件に及ぶ(詳しくはトルコの世界遺産を参照)。トルコの伝統的な文化はこのような基層文化にトルコ人が中央アジアからもたらした要素を加えて、東ヨーロッパから西アジアの諸国と相互に影響を受けあいながら発展してきた。

近現代のオスマン帝国、トルコは、ちょうど日本の文明開化と同じように、西洋文明を積極的に取り入れてきたが、それとともにトルコ文学、演劇、音楽などの近代芸術は、言文一致運動や言語の純化運動、社会運動などと結びついてトルコ独自の歴史を歩んできた。こうした近代化の一方で、歴史遺産の保全に関しては立ち遅れも見られる。無形文化財ではオスマン古典音楽の演奏者は著しく減少し、また剣術、弓術などいくつかの伝統的な技芸は既に失われた。有形の遺跡もオスマン帝国時代以来のイスラーム以前の建築物に対する無関心は現在も少なからず残っており、多くの遺跡が長らく管理者すら置かれない事実上の放置状態に置かれてきた。近年は、いくつかの有名なギリシャ・ローマ時代の遺跡やイスラーム時代の建築が観光化されて管理が行き届くようになったが、依然として多くの遺跡は風化の危機にさらされている。このような状況に対する懸念も表明されているが、その保全対策は財政事情もありほとんどまったく手付かずの状態である。

**さすがはトルコ。ユーラシアの歴史と文化の博物館みたいなもんやがな。文化遺産や無形文化財が消えてしまうのはもったいないな。**



## 世界遺産

<文化遺産>

イスタンブールの歴史地区 - (1985年)

ディヴリーイの大モスクと病院 - (1985年)

ハットゥシャ - (1986年)

ネムルト・ダウ - (1987年)

クサントス-レトーン - (1988年)

サフランボル市街 - (1994年)

トロイの考古遺跡 - (1998年)

セリミア・モスクとその社会的複合施設群 - (2011年)

チャタル・ヒュユクの新石器時代遺跡 - (2012年)

<複合遺産>

ギョレメ国立公園およびカッパドキアの岩石遺跡群 - (1985年)

ヒエラポリス-パムッカレ - (1988年)

**ぎょうさんあるやろ！**



# 旅人からの伝言 Tips



TwitterなどのSNSでお題を投げかけ、お返事を集めて情報を並べました。  
気になる Tips をチェックしてくださいね。

美味かった、ビックリした、ご飯、スイーツなど教えてください。



@nktaryo\_: 日本でも人気のあるケバブサンドイッチ。本場で食べるのは一味も二味も違います。それとビールは「エフェス」ですね。それとシシカバブのコンボプレートもいいですね。それとアニスの匂い(薬草くさく、ハマる人はハマる。アラックとかウゾと同じ)のラキという水を入れて白濁するお酒もいいです。



@chaichauchao: 食べ物はなんと言ってもイスケンデルケバブ。デザートではカザンディビ。お菓子ではピシュマニエが好きです。ピシュマニエはモコモコの砂糖菓子です。食べ応えのある綿あめと言ったところでしょうか。



@ishulife: その辺のカフェやロカンタで食べる朝のスープ。美味しい。安い。パンは食べ放題。たまにチャイ付き。トルコでの食事は期待をいい意味で裏切るものがたくさんありますよね。ロカンタのご飯は本当に懐かしいです。



@nachutabi\_cathy: スイーツ好きならパクラフ！！ラブのお菓子ですがパイのシロップ漬けて、トルコが1番美味しかったです

# 旅人からの伝言 Tips



トラブルなどに遭遇した体験などありましたら教えてください。



@nachutabi\_cathy: サフランボルでローカルピーポーと口論になっちゃいました…一方的に罪をきせられ責められたのですが、ムスリムの逆鱗に触れちゃったのかな~と思う体験でした

はずせないスポット、面白いスポット、レアなスポットって？



@ishicoro: トルコの観光ガイドはライセンス制みたいですね。観光地でひょっこり出くわしたガイドも必ず ID つけてて歴史などにもものすごく詳しい。観光ガイドの質はいままで行った国の中でも一番よいかも。



@sambo\_anm: スメラは世界遺産に登録されててもってくらいよかったです。



@kabu\_d: 地中海沿いのオルデニスという街はゆっくりできてオススメです。ヨーロッパの地中海リゾートの3分の1ぐらいの費用で満喫できますし海も綺麗でした。なにより標高 2,000m の山から飛ぶパラグライダーはここならではの体験です。20 分程の滑降が格安で楽しめます。



@chaichauchao: 個人的にはアンタクヤです。トルコからシリアに食い込んでる部分。町のほとんどの人がトルコ語とアラビア語を話します。世界最古の教会や世界で 2 番目の規模のモザイク博物館などありますが、観光慣れしてない街独特の中東らしさ、田舎らしさがたまりません。



# 旅人からの伝言 Tips



ごこの宿、最高だった！ってな宿と理由をご紹介ください。



@nachutabi\_cathy: サフランポルにある新婚さんが営む民宿は、昔ながらの建物改装してて良かったです。料理上手な奥さんと誠実な旦那さんの人柄についつい長居してしまいました。



@yuki21024: やっぱり洞窟ホテルです！部屋ごとに内装も変わっていて、中も素敵でしたが夜はホテルの外に出ると、灯りと洞窟の岩がとっても幻想的で夢見心地でした





トルコはここ数年メディアに取り上げられる機会が増えてきて、一人のトルコ好きとして大変に喜ばしい事です。

トルコと云えば「親日」とかよく云われますがそんな事は無く、旅人全般に親切な方が多い反面、詐欺師(?)も多いのです。

交差点で迂闊に立ち止まると

「何処へ行くの? 大丈夫?」

と、9割の確率で話しかけられる程の親切さ(あまりに頼りなく見えた説もあり)と、凄い勢いで

「日本人だろ? 助けてくれ!!」

と呼ばれて駆けつければ

「ボスフォラス海峡クルーズに乗れ! 俺を助けると思って。50ドルだ!」

等、げんなりしたりと5回程トルコを訪問しても解りません。まあ場所によるのですが。

さて、本稿では余り取り上げられないものの一般人でも行ける場所を幾つかご紹介したいと思います。

### 【ナイチンゲール博物館】

ナイチンゲールの逸話は皆さんご存知かと思いますが、衛生学や統計学など近代医療を超えて及ぼした影響は中々に大きい方なのです。彼女が活躍した病院がイスタンブールに在るのは余り知られてない話かと。

場所はイスタンブールのアジア側にあるセリミエ兵舎。最寄りの交通機関はハーレム埠頭が近いと思います。なぜ今まで取り上げられる機会が少なかったか?

それは軍の施設内だから。

私も事前に大使館に許可を求める電話を掛けたところ、観光課と駐在武官の間を行ったり来たり。どうもトルコで彼女はマイナーな存在な模様。大使館の誰も知らない。現地に行けば大丈夫との話でしたが.....。

結果は門前払い。何度か押し問答の末、事前予約が無いと不可。メディアの取材かどうか聞か



れたので、違うと答えたら無料との事。ただ写真撮影は禁止（多分取材申請を出しておけばOKかも）。

パスポートのコピーと来訪日時を事前にファックスで送れば許可ということで巻土重来。

数日後に出直したら、要予約の訳が解りました。

軍の広報官（美女！）と従卒が付くツアーなのです。撮影禁止なのが惜しまれますね。

前方に広報官、背後に従卒を従えて廊下を抜けていきます。廊下の左右にはオフィスが連なり、みんな報道官の彼女を見かけるとビシッと敬礼。結構偉い方の様で、引率されている僕はハリウッド映画にある「難事件の為に連れて来られた専門家」みたいな気分で妙に楽しいのです。

途中、幾つものセキュリティを抜けて広報官の上司に挨拶して、漸く到着。大きな広間に通されました。壁には様々な写真が。

「戦果」を誇る写真も割と有ります。死体の山を前に「ハイ、ポーズ！」と云った趣。バルカンで撮ったとしか読み取れないので

「ここは何処？」

と訊いたら

「さあ？ 敵は敵よ？」

との返答。軍人らしい返事に妙に納得。

さて肝心の博物館は部屋の端にある螺旋階段を登って二階へ。8畳程の小さな部屋。ここが元ナイチンゲールの部屋、現博物館なのです。先ほどの広間は元病室との事。

大振りな机と薬棚と調合台、小さなソファベッド。コレが全て。壁には彼女の手紙が額装されています。ベッドが小さいのは寝すぎ無い様にとの事。この部屋を拠点に一年少々、看護、調薬、現場の改善と本国への改善要求等々と睡眠を削って行ったと思うとググッと胸に熱いものがこみ上げて来ます。「近代医療」はココから始まったと云えるでしょう。写真撮影禁止なのが悔やまれます。

#### 【テルメッソス遺跡】



さて次は地中海側の温暖な都市アンタルヤ郊外にあるテルメッソス遺跡。アレキサンダー大王も攻めあぐねた天空の都市です。ココは公共交通機関が通じて無いので宿泊した日本人経営のペンションでツアーをアレンジ。2005年当時50ドル程でした。冬の日午後、うす曇りの市内から走る事40分ほどで遺跡へ。山緑の合間に遺跡が見えます。看板も最小限な小道を登っていくと遺跡！ 正に遺跡です。

度重なる地震で放棄された街だそうで瓦礫の山々！ 堪りません。整備された遺跡とは違う生々しい印象です。

瓦礫を越え写真を撮りまくっていると辺りを霧が包んで来ます。霧の中に浮かぶ遺跡。人気も無く聞こえるのは数羽の小鳥の立てる草音のみ、と、気分はRPGの主人公です。



ふと気づけば石棺ばかり。墓地です。でも写真を撮りまくる私。気が付けば濃い霧に包まれ、看板や方角が怪しくなって来ました。気分は一転、霧に包まれた古代墓地をさまよう破目に。ホラー映画の気弱な主人公気分です。霧雨も降って来て「諸星大二郎の漫画にこんな話があったな」と怖い考えを振り切り歩きます。

看板が最小限な事も手伝って(?) 同じ場所をぐるぐる回っている様な気もしながら歩く、歩く。何とか見覚えのある登山道に出て事なきを得ました。

気が付いたら遺跡に入って3時間ほど過ぎてますが、他の紀行文にある競技場にも到達できず仕舞い。好きな方は午前中からお弁当と歩きやすい靴(山岳用が有れば楽)で臨むのが良いかと思います。

以上2つの場所の思い出をつらつら書き連ねましたが、トルコは広く、未だ奇妙な場所があると信じている次第です。

カネコ カズヒロ

新潟県出身 主にオスマントルコ対〇〇というお題で旅してます。

或いはビール！歴史！猫！美味しい物！が揃っている場所も好きです。

パスポートの写真にツールドフランスのジャージで写っているぐらいには自転車も好き。



日本語

# 変な

旅先の

海外でみかける変な日本語。看板やメニューをはじめ、商品名やTシャツ、チラシに至るまで。笑わせてくれたり、困惑させられたり。そんな変な日本語をTwitterなどで募集してみました。



シリアからの避難。自由軍**VS**政府軍の殺し合い。

---

シリアからの避難。自由軍VS政府軍の殺し合い。

「facebookでシェア63件もらった投稿をアップします」

鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84 (100M)

美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティー、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

[http://mixi.jp/view\\_community.pl?id=3502328](http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328)

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>



ちょっと前に友達のスィン君からぶっ飛んだメールが送られてきた。シリア人についての内容だが、ここにはちょっと書けないや.....。

でも、スィン君の投稿を読んで納得！

そういう事だったのか.....。

スィン君の投稿↓

=====

みなさん今何を考えていますか？

僕は余りにも胸が熱くなったので友達に許可を得てこの話をFacebookに投稿する事にしました。

彼と生活をしだして約1ヶ月経つでしょうか。

彼はシリア人で元兵士。

4ヶ月前までシリアで銃を手放す事のない生活を7ヶ月間送っていました。

昼も夜も構わず飛んで来る砲撃弾。どこから飛んで来るのか予測がつかない敵スナイパーの一撃



。食料の買い出しに行くのにも命掛けです。壁の影に身を隠しながら、仲間の食料を調達します

戦争が長引く中、彼の友達や知り合いが次々と死んでいきました。



一秒前まで横で話をしていた友達が頭を敵スナイパーに撃ち抜かれ、会話が止まります。

ロケットランチャーをアジトに撃ち込まれ死んで行く仲間達。

次々と死んでいく仲間達を見るうちに彼の中で死の恐怖がどんどん大きくなっていきます。

ある日彼は道を歩いていると突然、敵の砲撃弾を受けました。

彼は意識を失い、気付くとベッドの上に寝かされていたと聞きました。耳は聞こえず体も傷つき、死の狭間を体験しました。

その事で彼の中で死の恐怖が限界に達し、とうとう彼はシリアを脱出する事を決意します。



行き先はトルコのイスタンブール。

トルコはシリアと隣接している為、シリアの難民を受け入れています。彼にとってトルコは華やかな世界です。

今まで一度も来た事のなかったトルコ。笑顔を振りまきながら歩いて行く観光客。子供がはしゃぎながらお母さんにおねだりする姿。

安心して眠れ、安心して道を歩けます。そして何よりも彼に刺激を与えたのは、ホステルを訪れて来るさまざまな国の人達でした。

シリアでは接する事が殆どなかった欧米人や日本人。

彼にとってそういう人達と会話をし、接する事ができたのが一番の楽しみでもあり、刺激でもありました。

僕が彼と知り合ったのは3ヶ月前でした。

その時の彼は僕から見ると顔に陰りがありました。一目見た時から僕は分かりました。

この人は人間をよく理解していると……。

心が傷付いていたんだと思います。

彼がシリアで兵士として同国の人間同士と戦う事。死んで行く仲間達。

そんな世界を体験したならば、誰でも心が病んでしまいます。

3ヶ月前の彼は少し心が病んでいるように見えました。

それから彼と頻繁に連絡をとるようになり、彼と再会する時が来ました。1ヶ月前でしょうか……。

彼の顔を見た時、彼の顔から陰りがすっかり消えていました。

彼はホステルの欧米人達と仲良く話をしていました。あれだけ嫌っていた中国人とも笑顔で会話もしていました。

色々な国の人達と話す事によって心が癒されていったんだと思います。

今では彼自身の本来の素晴らしい性格が思う存分発揮されていると思います。

彼はとても繊細な心の持ち主です。僕が元気のない日には、その僕の顔を察知し、

「シン大夫か？ 何かあったのか？」

と訪ねてきます。

彼は僕の事をシンと呼びます。

「シン、今日は寒いから酒でも飲もう」

金もないくせに、僕に酒を奢ります。僕だけじゃなく、女の子と酒を飲む時にも格好つけて、金を持っている人にも奢ります。

彼はそういう人間です。

次第に彼の中で一つの目標が芽生えます。

それは、ヨーロッパに行く事。

彼にとってヨーロッパに行く事は最大限の可能性と憧れでした。

しかし、彼はシリア人。

今シリア人がヨーロッパに行く事はとても難しい事です。

トルコ、ヨルダン、レバノン、エジプト以外の国にはほぼ無理と言っていいほど行けません。

ヨーロッパ諸国はシリア人の入国を制限しています。

しかし、彼はどうしてもヨーロッパに夢を抱きます。

ある日、そのチャンスが訪れました。

同じ宿に宿泊していたドイツ人が彼に手を貸しました。



彼はドイツ人のパスポートを借り、トルコのマフィアに力を借り、フェイクのパスポートを作る事に成功しました。

彼はドイツ人になりきりヨーロッパに渡ろうとしたのです。

国籍もドイツ、生まれもドイツ。

ドイツ国籍で飛行機のチケットを買い、フライトの日に備えてドイツ人との語学レッスン。それはそうです。

ドイツ人なんだからドイツ語を話せないといけません。

イミグレから質問される事を予測した会話レッスンです。

しかし、明らかに怪しい。

見ている僕のほうは毎日爆笑です。

何回も言いました。

「辞めとけ！ 絶対にバレるから」

しかもファハドは英語も話せない。

「辞めとけ！」

しかし、彼は言う事を聞きません。

彼の頭の中はヨーロッパ一色。

毎日、ニコニコ笑いながら、出発の日を楽しみにしているだけです。

馬鹿なのか、それともただ何も考えてないのか。

結局、ろくにドイツ語を話せないまま出発の日が訪れました。

彼は僕に言いました。

「シン、お前は兄弟だ。シリアに来た時必ず俺の家に来い。俺の家族がシンを歓迎する。シリアがシンを招待する」

「俺はこれからヨーロッパに行くがシンの事は一生忘れない」

僕も言いました。

「ファハド、お前の成功を祈る。上手くやれ」

みんなに見送られ彼は旅立ちました。

.....大丈夫だろうか？

パスポートの完成度を見ても不安を感じる。それに顔を見れば明らかにドイツ人じゃない。絶対無理だろう。

でも、友達はまだ既に旅立ちました。

幸運を祈るしかありません。

彼が旅立ったその日の夜に、もう一人のシリア人の友達に一本の電話が掛かってきました。

警察からです。

やっぱり捕まった……。

だから言わんこっちゃない。

警察は柄受けとして彼を空港まで迎えに来て欲しいとの事でした。

もう一人のシリア人が彼を警察署まで迎えに行きます。

結局彼がホステルに戻ってきたのは出発から2日後。

2日間警察署にお世話になり、元気な顔で笑顔を振りまき戻ってきました。

てっきり病んでるんじゃないかと思っていたのは僕のただの勘違い。

元気に自分のこの2日間のストーリーを自慢げにみんなに話しています。

みんな大爆笑。

どうやら彼はフェイクのパスポートで空港イミグレを通過したみたいでした。

パスポートに出国スタンプを押してもらったまではいいんですが、たまたま運が悪く彼の後ろにアラビア語を話す人間がいて、そいつがアラビア語で彼に話しかけた事により彼がドイツ人じゃない事がばれたみたいです。

その話しをみんなに笑顔を振りまきながら話していました。馬鹿。

ストレートすぎる性格の持ち主です。

彼は言っています。

今度は走ってドイツまで行くと。

タッタターって走ると言っています。

どこまで不安と言う言葉が彼の中に無いのだろうかと考えてしまいます。

次のチャンスを考えながらまたトルコでの生活がスタートです。

ホステルに訪れてくる旅人との会話を楽しみながら毎日過ごします。

みんなでタバコを吸ったり酒を飲んだりして楽しい毎日です。

しかし、彼にはもうお金がありません。ドイツに行く為にマフィアに渡したお金は2千ドル。僕ら日本人にしたら20万円くらい1ヶ月もあればゆうに稼げる額ですが、こっちの金銭価値からいうと200万円くらいでしょうか。

大金です。

次第に酒を飲む回数も減っていき、前まではたまに行っていた外食も全く行かなくなりました。

一昨日の出来事です。



彼は滅多にFacebookを更新しないのですが、突然Facebookにこんな事を投稿していました。  
これは彼自身がFacebookに投稿していた事を翻訳した事です。  
彼はこう書いていました。

「俺はシリア人としてダマスカスの血として産まれてきた事を誇りに思う」

突然、こんな事を投稿していたので、何かあるんだと察知しました。  
彼は元兵士。

俺は彼に訪ねました。  
「どうしたんだ？ 最近、元気がないぞ」  
しかし、彼は何も言いません。

「どうした？ 何かあったか？」  
すると彼は言いました。  
「シン、俺は明日シリアとの国境の街に戻る」  
僕は訪ねました。  
「なんでだ？ 突然どうした？」  
「なんでシリアの国境の街に戻るんだ？」  
彼は何も言いません。

しかし、僕は察知しました。  
4日前のシリア人兵士達とのミーティングに何か関係しているんじゃないのかと.....。

4日前あるマンションの一室でのシリア人達のミーティングに、僕は誘われ付いて行きました。  
そのミーティングではこれからの戦闘をどう切り抜いていくのかと言う話だったんだと思います。  
。

その日、彼はミーティングを仕切っていたボスらしき人間に金を借りていました。  
もう生活する資金がないのです。  
もしかしたら、その日に彼ら兵士達に金がないなら兵士に戻れと言われたのかもしれない。

彼はもう宿代も払えなかったのでしょうか。  
しかし、その事は一切僕には言いません。  
彼は金で人間関係を崩すくらいなら、自分の体をはる男です。  
決して僕に金を貸してくれなど言ってきません。

だけど、彼の顔は悲しみに満ちていました。  
Facebookの投稿の言葉で僕は気付きました。

「シリア人としてダマスカスの血として産まれてきた事を誇りに思う」

僕はこの投稿が今までのFacebookの投稿で一番胸にきました。  
彼は金が無いからホステルに滞在できないとは口にしません。しかし、僕には分かります。  
彼はもしかしたらまた兵士に戻るかもしれないと……。

僕は彼の友達として彼を危険な目に合わせる事はできません。  
ホステルのオーナーに僕から彼の事情を説明しどうにか彼をここにおいてやってくれないだろ  
うか。

必死に頼みました。

ここのホステルのオーナーもまた、いい心の持ち主です。  
「シンがそこまで頼むなら彼を受け入れる。ご飯も食べさせてやる」  
とボスは言ってくれました。

彼の周りには優しい仲間がいます。  
彼は今、僕の隣のベッドで英語を勉強しています。

僕は彼に毎日言います。  
「英語を勉強しろ。そして日本語も勉強しろ」

彼は日本に行きたいと言っています。彼は僕ら日本人が大好きなんです。  
僕がこの旅を終えた時、彼を日本に呼ぼうと思っています。日本には沢山の夢がある。沢山の物  
もある。金も稼げる。

彼は僕に聴いてきました。  
「シン、お前の夢は何だ？」  
「俺の夢は……金持ちになる事。金があれば旅もできるし、いい女もだけのる」  
俺は彼に訪ねました。  
「ファハドの夢は何だ？」  
「俺の夢は……安心して生活する事」  
「未来のシリアが安心して暮らせるようになる事だ」と、彼は言います。



彼の名前はファハド。

熱い、熱い、心の持ち主です。

彼の繊細過ぎる心と彼が体験したシリアでの出来事を代理で僕が話すには不十分ですが、今の僕の思いを投稿したくFacebookしました。

読んでくれたみんなにありがとう。



=====

↑以上、シン君の投稿。

将来、歴史の教科書に載るであろうこのシリアの残虐な内戦。

その歴史の1ページの出来事の、とても近い位置にシン君は居る。

それを、経験と言っているのか、それともリアルな悲しみを知ってしまったと言った方がいいのか。

日本を出て見解を広げた人、

シン君の様にさまざまな体験をした人、

これからはそんな人が教師となって教壇に立ち、歴史や世界史、英語を生徒に教えてほしい。

そして日本を出てつくづく体感すること。

「日本のパスポートは強い」

トランプゲームの大富豪でいったら、ジョーカー並みの強さか。

そして、

人間て欲の強い動物だと思う。

欲しい物を手に入れると、また次のものが欲しくなる。

それがブランド品なのか、高級スポーツカーなのか、

それとも名誉なのか、地位なのか。

欲しい物を考え、手にすることも大事だけど、  
ちょっと立ち止まって、今持っているものを見返す事も大事だと思う。

「今すでに何を持っているか？」

忙しい毎日を送っていると忘れてしまう事だが、  
みんなは途上国の人々の、  
夢や憧れをすでに手にしている事を知って欲しい。

みんなの幸せを願って。そしてシリアの平和を願って。

旅って、  
勉強させられる事が本当に多い。

## HANGOVER in the WORLD

---

### 【白酒、黄酒編】



中国でハングオーバーと言ったら、避けては通れないのが白酒（バイジウ）だろう。白い酒と書くが無色透明でアルコール度数が40%以上と非常に高い。

中国人はこの酒で食事中何度も「乾杯（ガンベイ）」するらしい。勿論読んで字のごとく「杯を乾かす」のだ。

私がこの酒の存在を知ったのは確か、ドラマや映画化もされた人気小説『ハゲタカ』の著者である真山仁氏の小説であり、上記の乾杯に関する描写もその小説に詳しく描かれていた。

しかし、何を隠そう筆者はこの酒が苦手である。苦手であるというよりはむしろ嫌いである。初めて中国に旅行した帰り「そう言えば噂の白酒を飲まなかったな」と思い空港の免税店で買って帰ったはいいが、あまりにキツイ匂いとアルコールに、殆ど飲むことが出来ず開封してから数年放置した挙句、転勤に乗じて会社の後輩に擦り付けてしまったと言うほどダメな酒なのである。

しかし、この記事を書くに当たってこの酒はやはり避けては通れない。とすることで意（胃）を決して黄山から上海に移動する際にコンビニで購入した。235ml入ってたったの5元（約85円）。

電車の中でまずは青島ビールを飲み心を落ち着かせる。そして意を決して白酒の瓶を開けた。瓶から立ち上る芳醇な香りが過去の思い出を一瞬で呼び覚ます。しかし、ここで退いてはハングオーバーについて書く資格はない。そう思い一気に口に含む。最初、原料由来の甘さが口の中に広がる。ここまではいい。しかしその刹那、高アルコール独特の口の中が焼けるような感覚が支配し、一気に飲み込むも最初の甘みはどこへやら。

やっぱり僕にはこのお酒は向いてないみたいっす（とは言えこの記事のためだけにわざわざ苦手な酒を買った私を誉めてください）。ちなみに、蘇州のユースホテルで同じドミになった中国人の若者に聞いたところ、やっぱり白酒は苦手らしい。彼は、北京辺りの、しかも年配者は好きだけど若者はあんまり飲まないよ、と言っていて非常に安心したものだ。

この白酒が美味しく飲めるようになれば中国出張もへっちゃらだし、中国で気持ちよくハン



グオーバーできるはずだ。

一方、日本でも比較的馴染みがあるのが黄酒（ホワンジウ）だ。黄酒、と聞くとなんだそれは？とお思いになるかも知れないが、紹興で作られる紹興酒が有名だ、と書けば酒好きのあなたになら、「ああ、あの酒ね！」と思ってもらえることだろう。紹興酒は日本でも多くの中華料理屋に置かれているから、飲んだことのある諸兄も多いだろう。

黄酒は米を原料とする醸造酒で、色は茶色でアルコール度数は15%程度なので白酒と違って飲みやすい。冬には温めてざらめを溶かして飲むこともある。これを長期に渡って熟成させたものが老酒（ラオジウ）である。



さて、紹興酒で有名な紹興であるが、浙江州の北部にあり、上海から約二時間、杭州からだと約40分で訪れることができる。『阿Q正伝』や『狂人日記』で有名な魯迅の故郷としても有名で紹興には、魯迅ゆかりの場所が多く残されている。そんな紹興には「咸享酒店」という1894年創業の老舗居酒屋があり、魯迅の作品『孔乙己』にも登場する。今回は杭州に滞在していた際に日帰りで訪れてみた。



紹興にある紹興北駅は杭州東駅から動車組と言うタイプの電車でたったの20分。紹興は昔ながらの街並みが残されたエリアと、近代的に発展を遂げつつあるエリアとが混在している。「咸享酒店」は、紹興の目抜き通り解放北路から少し魯迅故里の方に入ったところにある。

入り口には紹興酒片手に酔っぱらったおっさんの銅像。このおっさんが嬉しそうに左手につまんでいるのは空豆だ。

「咸享酒店」のシステムは、まずお金を渡してICカードを貰う。何か買うときはそのカードをスタッフに渡して精算してもらい最後店を出るときに残金を返却して貰う。お店の入り口のエリアでは紹興酒と空豆、落花生などの簡単なおつまみが、店内では咸亨糟鷄、梅干菜扣肉などの咸享酒店名物や紹興名物臭豆腐をはじめとするつまみや料理の数々が注文できる。



おすすめはICカードを貰ったその足で店内で何品か注文し外に出て紹興酒と空豆を貰いそのまま外で食事すること。なぜなら外のスペースは江南地方の伝統的居酒屋スタイルを踏襲しているのだ。

さて、日本で紹興酒と言えば小さい猪口でちびちび飲むイメージだと思われるが、こちらでは1杯250mlのお椀でいただく。適度に爛してあって12月下旬の気候でも心地よい。250mlと言っても、いい酒なのでぐいぐい飲んでしまう。つまみも全体的に美味しいし、空豆がまた紹興酒に合うのだ。



そんなこんなでグイグイ飲んでしていると、いつの間にか時間が経過して杭州に戻らなければならない時間になっている。本当に酒が好きな諸兄は日帰りではなくて紹興で一泊するのも選択肢としては十分検討に値する。ちなみにこの「咸亨酒店」、隣にショップを併設し、甕入紹興酒が1.5リットル30元(約505円)程度から買うことが出来る。紹興滞在だけでなく日本に帰ってからも楽しむことが出来るので本当におすすめである。

なお今回私は行けなかったが、紹興には中国黄酒博物館なるものも存在する。黄酒を極めんとする諸兄はぜひ行ってみたい。そして私にどうだったか感想を教えていただければ幸いである。



三矢英人

1986年生まれ、神奈川県出身。旅の適齢期が到来したためリーマンパッカーを卒業し世界へ！島根をフェリーで出港しひたすら陸路で現在タイ南部。

HP :My pace,My life(<http://www.mitsuyahideto.com>)

Twitter :[@hideto328](#)





功：前は僕たちの自転車旅で行ったプロジェクトの紹介をしましたね。

儀：ええ、そもそもこの連載のタイトルが「一本の糸で世界をつなぐチャリの旅」なんですけれども、「一本の糸で世界をつなぐとはなんぞや？」とお思いの方々もいらっしやったでしょう。

功：詳しくは前回のbrali vol. 1 6を参照！

儀：さて、ポルトガルから始まったユーラシア大陸横断の旅も、いよいよ後半戦に突入！

功：インクレディブルなインドをなんとか脱出し、バングラデシュに突入！

儀：コルカタを出て数百キロ、メインの国道から外れたし短距離の田舎道を選び、いよいよ国境にさしかかろうというジャングルの中。

功：こんな口々に舗装もされてないようなへんぴなジャングルの中の小道に国境があるんだろうかと半信半疑。

儀：そろそろ国境のはずなんだけどなー、全然国境の気配がないなーと思っていると、不意に背後からおっさんに大声で呼び止められる。

功：なんだかおっさんが、わらの屋根の小屋を指差してこっちに来的なしぐさをしているのでとりあえず行ってみると……。

儀：おっさん曰く、「おい、何国境スルーしてんだよ！　ここで出国手続きしていけよ！」とのこと。

功：いや、わからないから！　そんな大切な場所ならもっと立派な建物にするとか、ちゃんと看板出しとけよ！　と、ツッコミたくなる気持ちを抑えつつ、小道の端に建ってるボロ小屋でパスポートをチェックしてもらおう。

儀：無事に出国スタンプを押してもらい、今度はバングラ側の検問所へ。

功：しばらく自転車をこいでいると、再び背後から別のおっさんに大声で呼び止められる。

儀：なんだかおっさんが、わらの屋根の小屋を指差してこっちに来的なしぐさをしているのでとりあえず行ってみると……。

功：「おい、何国境スルーしてんだよ！　ここで入国手続きしていけよ！」とのこと。

儀：「いや、だからわかんねーよ、検問！」と再びツッコミをしたくなりましたが。

功：言われた通りにおとなしく国境の検問所とは思えないような、わらの屋根の検問所で入国スタンプを押してもらい、とうとうバングラデシュに入国！

功：といっても、国境があまりにもローカル過ぎて入国した感ゼロ。

儀：まわりのみんなの顔もほぼインド人と変わらないし。

功：ひとまず、国境の数百メートル先にあった町の換金所で、インドのルピーからバングラのタカに換金。

儀：換金所といっても、土の上に柱が立ってそこにトタン屋根をひっかけてだけの掘建て小屋。

功：換金所のまわりは気づくと大量のバングラデシュ人が集まっていました。

儀：「おいおい、なんか国境から自転車で日本人がやって来たらしいぜ」的なうわさが町を駆けめぐって、町中の人々が集まったのではないかと思われる程の人ばかり。

功：みんな何をするわけでも、何を言うわけでもなく、ただ物珍しいものでも見るようにひたすらこちらを見つめてくる。

儀：なんだかこういうのはインドの田舎の村々と同じ現象ですよ（笑）。

功：たしかに。インドでも露店でバナナ食べてるだけで何十人ものインド人に取り囲まれて大騒ぎでした。

儀：でも、バングラとインド（といっても国がデカ過ぎるのでひとくくりにはできませんが）の一番の違いは宗教でしょうかね？

功：うん、バングラはインドと違ってほとんどの人がイスラム教。

功：インドにもイスラムの人はたくさん住んでいますが、ヒンドゥー教の人々が最も多いのです。

儀：町にはイスラムの国々ではおなじみのモスクがあって、モスクからは一日5回のお祈りの時間を告げる呼びかけの朗読「アザーン」が大音量の拡声器で流されていましたね。

功：あれを聴くと、「あー、イスラムだなー」と感じます。

儀：宗教が違うためか、ガツガツと人からお金をぶんどってくる人が多いインドとは異なり、穏やかな人の方が多かった印象です。

功：まあ、基本的な気質は似ているので、街中の道路は相変わらず車とリクシャとオートリクシャと牛と犬とウ○コが入り乱れる、カオスと呼ぶに相応しい、秩序正しい日本からは想像できない亜空間です。

儀：特に、世界最高の人口密度を誇るバングラデシュの首都ダッカは、自転車で走れるような交通状況ではありません。

功：まあ走りましたけど。

儀：もしこれからダッカを自転車で走ってみようなどと思っている方がいらっしゃいましたら、悪いことは言いません、やめておきましょう。

功：まあ絶対にいないと思いますけど。

儀：命が惜しい方は自転車でダッカ観光は行わないようにしましょう。

功：もし血迷って、どうしてもダッカを自転車で走らなければいけないような状況になったら、すみやかにその自転車を置いて、リクシャかオートリクシャで移動をしましょう。

儀：リクシャですら、急激なターンで道路の真ん中でひっくり返る可能性はありますが。

功：結局バングラデシュもインクレディブルですね……。

儀：いやー、でも僕バングラデシュ好きですよ。

功：僕もです。



儀：アジア最貧国に属するバングラデシュですが、首都のダッカはなんてゆうかゴチャゴチャの caos なんですが、これから何か生まれるぞー、すごいものを作って行くぞー、みたいな底知れぬエネルギーみたいなものを感じるんです。

功：街全体の雰囲気ギラギラしたオーラをまとっているというか、あそこに居るとなんかこちらも力が湧いてきますね。

儀：首都は活気に満ち溢れていますが、農村の方も人々が貧しいながらも穏やかに平和に暮らしていて好きです。

功：田舎だと水道が無いので、僕らもお風呂は井戸からポンプで水を汲み上げて、飲んだらお腹壊しそうな茶色の水で体洗ったりするんですけど、シャンプーしてると近くの子どもがニコニコしながらポンプで水を汲み出して、頭に水を掛けてくれたりするんです。

儀：みんな純粹で、目がキラキラしてましたね。ジャングルの中の小学校なんかに立ち寄ると、子どもがうわーっと集まって来て、すごいうれしそうに飛び回ってベンガル語でいっぱい話しかけてきますしね。何言ってるか全然わかんないけど（笑）。

功：それで学校を出て行くと、最後の最後までみんな手を振って見送ってくれるんです。

儀：最貧国と聞いて最初は、お金が無くてかわいそうとかなんだか上から目線で見ってしまう自分が恥ずかしかったですね。みんなあんなにキラキラした目をしているのに。

功：そんなバングラデシュにパワーをもらって、おかげさまで僕らは元気いっぱいダッカの caos の道路を、車やリクシャを蹴散らしながら自転車で突き進むことができました（笑）。



Connection of the Children

<http://coccococ.web.fc2.com>



<http://ad-f.sakura.ne.jp/html/coc/cal/>

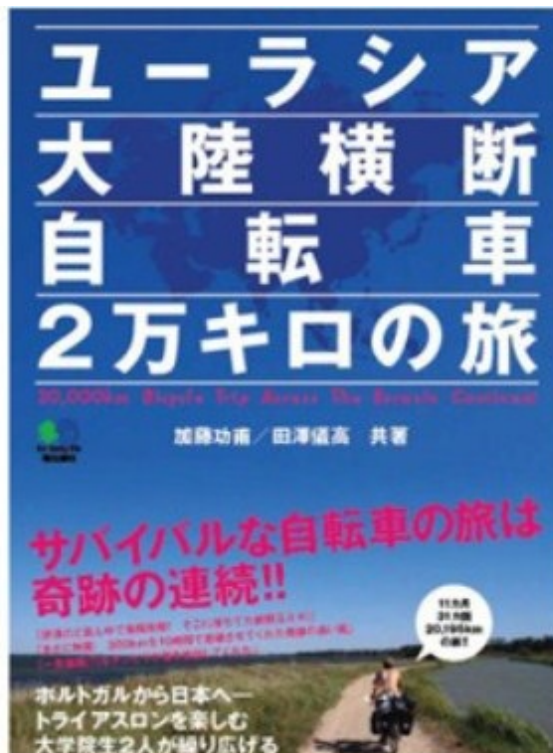
田澤儀高

横浜国立大学大学院音楽教育専攻一年。ピアノと自転車旅が大好き。小さい頃からチャリで遠出するのが趣味。将来は学校の先生になって音楽の素晴らしさを子どもに伝えたい。そしてユーラシア横断の旅で感じてきたことも。

加藤功甫

横浜国大大学院保健体育科専攻。ユーラシア大陸を横断後、ロングディスタンストライアスロン世界選手権出場。人のため、地球のために。ワクワクすることを。一本の糸で世界の子どもをつなぐ旅プロジェクト企画中。

# 加藤功甫 田澤儀高 共著



十一月、31カ国、20000  
 キロのユーラシア大陸横断の旅  
 は奇跡の連続。  
 その中で実施してきた世界の  
 子どもを繋げるプロジェクト。  
 1本の糸で世界の子どもを繋  
 いだ結果は…



小説Brallに連載中の彼らが成し遂げた長い道のり。ぜひご覧ください。

## 自炊派の手料理「サーモンのセビッチェ」

---

旅に出たら現地の料理を食すに限る。でも物価の高い街での長めの滞在となると、さすがに外食ばかりはフトコロに堪える。そんな時は自炊。簡単で安くて美味しい自炊派の手料理をご紹介します。

### 「サーモンのセビッチェ」（2人分）

中南米では有名なセビッチェ。火を使わずに切って混ぜるだけで作る事が出来る簡単料理。

#### 材料

- サーモン.....一冊
- アボガド.....1個
- トプチマト.....6個
- パプリカ.....ひとかけら
- タマネギ.....ひとかけら
- ライム.....2個
- 
- 塩.....小さじ2/1
- コショウ.....少々
- オリーブオイル...少々



#### 作り方

- ①各食材を切ります。
- ②塩、コショウ、オリーブオイル、搾ったライムを混ぜます。  
(ライムの果肉を入れると、香りが良くなります)
- ③各食材と調味料を混ぜ、5分ほど味をしみ込ませます。
- ④最後にきれいに盛りつけて完成です!!





魚の代わりにエビやイカでも美味しく作る事が出来ます。

きれいな海の近くでしたら、塩の代わりに少し海水を入れて作っても面白いですよ。

谷津 達観(やつ たっかん)

料理の道を歩んでいたが、突然夫婦で403日間、35ヶ国を周る世界一周の旅に！！

日本に帰ってきたかと思えば今度は仕事で香港在住決定！！

「家から徒歩一年☆たっかんとじんみの2人世界一周」

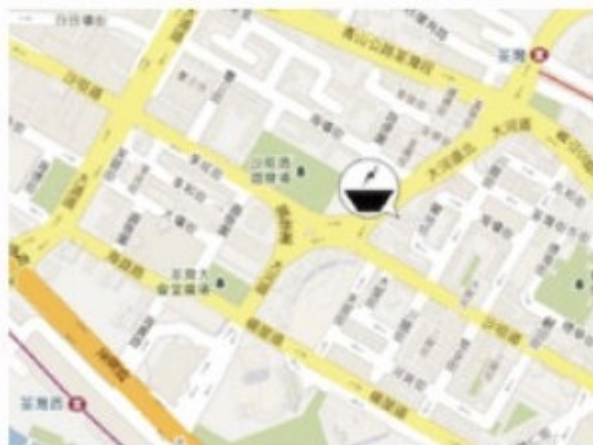
<http://ameblo.jp/worldjourney2010/>

日本人が作る本格魚介豚骨ラーメンが  
香港 荃湾に登場！！！！

# らーめん 台風。



本誌にレシピ掲載中の元バックパッカー料理人「谷津達観」が半年間準備を続けてきたラーメン店、いよいよ香港にオープン。まだ本格日本ラーメン店の無い下町 荃湾で、香港ラーメンブームの新たな台風の目となる！



\*店長「谷津達観」に「私は旅人です」と言ったら特製叉焼サービス！！

<http://www.ramen-taifu.com>  
<http://www.facebook.com/ramentaifu>  
香港 荃湾 大河道81號寶成樓 地下7号舖  
+852 2419 7717

## 沢井ブルース

旅する武術家 空手では国際大会優勝経験アリ

現在は東南アジアを中心に放浪及び武者修行中

ヘタクソな文章ではありますが、気楽に読んでもらってBraliの中の「箸休め」的な存在になれたらなーと思ってます

人生、酒と泪と旅と武術 梵我一如 覚有情

### 「乾杯」



中国では「干杯」と書き、読みは日本では「かんぱい」だが、中国では「カンペイ」と読む。漢字は微妙な違いだが内容は全く違っていた……。

中国・内モンゴル自治区、シリンホト（錫林浩特）。

僕は友人の高君を訪ねてこの地を訪れていた。彼の家には6日間いたが、そのうち5日間は宴会だった。

宴会が始まると、コップにアルコール度数50度はあるかという白酒(パイチュウ)をなみなみと注ぎ、乾杯の音頭と共にがちゃがちゃとコップを合わせ一気飲み！

僕は乾杯はしたものの白酒のあまりの度数に閉口し、ホンの少しだけしか飲まなかった。

そんな僕を見て、皆が凍りつき、ポカンとした眼で僕をじっと見つめる。

えっ、何で？と思った瞬間

「ブルース！お前は何をしているんだ！」

いつもは温厚な高君が頭から湯気を出す位に怒っていた。

彼は「干杯」とペーパーナプキンに書くと、乾杯の「干」字に丸をつけた。そして念を押すように何度も何度もぐしゃぐしゃと丸を付ける。

「干杯をしたら必ず飲み干せ！」



高君は眼に怒りさえ浮かべながらそう言った。

そう言っている間も彼の手は執拗に「干」の字に丸を付け続けていた……。

要は干杯したら「杯を干せ」

それも

一気に干せ！

こういう事なのだ。

うへええっ！ と思いながらも無理やり喉にパイチューウを流し込む。

うん、キツイ(泣)。

二回目にはあまりのキツさに「勘弁してくれ」とジェスチャーすると、

「仕方ないな！じゃ半分だけ飲め」

と言われ、ホッとしてやっと半分飲み干した瞬間、横の女性がカンペイ！ と言いながらカチンとグラスを合わせて来た。

半分にしてもらった意味ねえ！

仕方なく半泣きで半分残った白酒を無理矢理喉に流し込んだ……。

こうして、宴は夜が明けるまで続いたのであった……。その後は人生最大の二日酔いだった。

しかし、前述したように滞在6日中の5日間は”宴会”なのだった……。



皆さまも、中国で宴会に呼ばれたらご注意ください……。

胃薬とソルマックは必携です！

## Chibirock

Sigur RosとBeirut鼻眞のメタル好きバックパッカー。チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を選り分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>

【旅日記】罰当たりぐうたら生活《インド・ゴア編》

数日前、なんだかワインがよく作用したらしく、最後の最後で伝説を残したらしいちびろっくより、遅ればせながら新年のご挨拶です。



散々クダを巻いたり悪態をついたりした挙句、最終的にこの画像と同じ状態（その日の昼間に、「これやりすぎじゃねー？w」と撮った写真）で、眠りに落ちたらしい。

4ヶ月くらい寝食共にしているヒデ君に、正直なところ昨夜のわたしは人としてどうだったかと問うたところ、

「いや、全然大丈夫ですよ！」

と心強いお答え。嘘はないようだ。嫁に行けるかと問うたところ、

「どうっすかねー……」

と残念なお答え。これも嘘はないようだ。

いいんだ。結婚願望なんて。

無いから。

トランスみゅーじっくというものにとんと縁がなく、11月中には帰るつもりだったちびろっく、まさか年越しをゴアで過ごすとは、人生とはわからんもんです。

人生とはわからない、もはやこれは口癖、円楽師匠で言うところの「しょうがないねえ〜グハグハグハ」に匹敵するくらい何度も言ってる。

そんなゴアで、中国やインドで会った面々とともに、今日は〇〇したよ！と胸を張って言えない楽しい毎日を過ごしています。

流れとしては……。

まあまあ早めに起床。お腹すいてるが、キッチンのある家の主は起きるのが遅いので、早起きハラペコリン組は適当にパンとかで食いつなぐ。

昼前くらいになってキッチンが開放されると、誰かしらが、時間的にブランチ、とか言われるものを作り始める。それに便乗する。

午後は、



愛くるしい顔とは裏腹に、たてがみのような背毛が勇ましい子供と遊んだり、



フリーマーケットに続く道にて、一方通行にすりゃいいのにしないから、お前どけ、いやお前が後ろ行けの、毎週永遠に続くであろう押し問答をぼんやり眺めてみたり、





なんでか何回見ても飽きない日の入りを見るため、高い所にあがってみたり。  
だいたい夜は、楽ちんな鍋とか



パスタとか、誰かしらが猛烈に腕をふるってくれて、食べて、飲んで、飲まれて、むしろこれが毎日の一番の楽しみじゃないかって感じになっているけど、時々外に出ることもあって、



2週間遅れのロシアクリスマスには、憧れのポールになまめかしく絡むギャルズとか見たり



オーストラリアはケアンズとかで、退職後の悠々としたリゾートライフを楽しんでそうなDJ CHICAGOに煽られて朝を迎えたり。

とか、しています。

先日は俊さんの失われたiPodを買いに行くのに、「街で観光だ！」とゾロゾロと全員で付いて行ったりもしたけども、基本、いつの間にか夜が来ている、そんななんとなく生活。



サンダル直してもらう間の待ち時間とか、なんか特に感じたんだけど、時間の質というかそういうのが違って、日本じゃこういうの経験できないなとか、思った。

サンダル縫う待ち時間で感じるのもどうかと思うけどさ。

散々いろんなもん見といてさ。

この罰当たりな怠け者生活も残すところあと2日。寂しいのと何もしてなさすぎさに泣ける。

1月11日の夜、Invasion Festivalで生粋の神童・Prodigyを見るべく、ベンガルールに出発します。

【作者・情報提供者一覧】

---

【作者・情報提供者一覧】

旅人からの伝言 特集「トルコ」 中表紙写真

snoopy\_hide

一年後にはバックパックを背負って、2年間夫婦で世界一周を目指して、ゆっくりと歩き回る予定です。暮らすように旅をしたいですね。子供達の笑顔が見たい！

旅人からの伝言 特集「トルコ」 トルコTIPSで情報いただいた方のTwitterID

[@chaichauchao](https://twitter.com/chaichauchao)[@sambo\\_anm](https://twitter.com/sambo_anm)[@kabu\\_d](https://twitter.com/kabu_d)[@ishicoro](https://twitter.com/ishicoro)[@chaichauchao](https://twitter.com/chaichauchao)[@ishulife](https://twitter.com/ishulife)[@nachutabi](https://twitter.com/nachutabi)[@cathy@nktaryo](https://twitter.com/cathy@nktaryo)  
[@yuki21024](https://twitter.com/yuki21024)

旅人からの伝言 特集「トルコ」 トルコ観光の片隅 本文&写真

カネコ カズヒロ

新潟県出身 主にオスマントルコ対〇〇というお題で旅してます。

或いはビール！歴史！猫！美味しい物！が揃っている場所も好きです。

パスポートの写真にツールドフランスのジャージで写っているぐらいには自転車も好き。

変な日本語 写真

Hiro

28歳。新婚旅行で世界一周する……つもりだが、出発して半年経った今もまだ東南アジアに滞在中。出入国スタンプに世界の紙幣・コイン、「変な日本語」収集が趣味。この半年でやたらとビールにうるさくなった。南京虫とドリアンが苦手。

エッセイ 旅ときどき・・・ 本文&写真

鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84 (100M)

美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティー、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

[http://mixi.jp/view\\_community.pl?id=3502328](http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328)

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」



<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

HANGOVER in the WORLD 本文&写真

三矢英人

1986年生まれ、神奈川県出身。旅の適齢期が到来したためリーマンパッカーを卒業し世界へ！島根をフェリーで出港しひたすら陸路で現在タイ南部。

HP : My pace, My life(<http://www.mitsuyahideto.com>)

Twitter : [@hideto328](https://twitter.com/hideto328)

表紙写真

一本の糸で世界をつなぐチャリの旅 本文&写真

Connection of the Children

<http://coccococ.web.fc2.com>

<http://ad-f.sakura.ne.jp/html/coc/cal/>

田澤儀高

横浜国立大学大学院音楽教育専攻一年。ピアノと自転車旅が大好き。小さい頃からチャリで遠出するのが趣味。将来は学校の先生になって音楽の素晴らしさを子どもに伝えたい。そしてユーラシア横断の旅で感じてきたことも。

加藤功甫

横浜国大大学院保健体育科専攻。ユーラシア大陸を横断後、ロングディスタンストライアスロン世界選手権出場。人のため、地球のために。ワクワクすることを。一本の糸で世界の子どもをつなぐ旅プロジェクト企画中。

自炊派の手料理 本文&写真

谷津 達観(やつ たっかん)

料理の道を歩んでいたが、突然夫婦で403日間、35ヶ国を回る世界一周の旅に！！

日本に帰ってきたかと思えば今度は仕事で香港在住決定！！

「家から徒歩一年☆たっかんとじんみの2人世界一周」

<http://ameblo.jp/worldjourney2010/>

エッセイたびたべ 本文&写真

沢井ブルース

旅する武術家 空手では国際大会優勝経験アリ

現在は東南アジアを中心に放浪及び武者修行中

ヘタクソな文章ではありますが、気楽に読んでもらってBraLiの中の「箸休め」的な存在になれたらなーと思ってます

人生、酒と泪と旅と武術 梵我一如 覚有情

アジア漂流日記 本文&写真

Chibirock

Sigur RosとBeirut鼻屑のメタル好きバックパッカー。チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を選り分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>

【協力】

向井通浩

JAPAN BACKPACKERS LINK 代表・運営管理者。「ハニートラップ研究所」所長。タイムマッサージ依存症。ホワイト餃子。バックパッカー新聞編集長。

<http://backpackers-link.com>

<http://www.mag2.com/m/0001521550.html>

小田奉路

海外起業家's EGG主宰

<http://worldsegg.com/>

<http://archive.mag2.com/0001295311/index.html>

【広告】

カオサン東京ゲストハウス

<http://www.khaosan-tokyo.com/ja/>

Maison D'hote Amade chez noriko

<http://amandecheznoriko.web.fc2.com/>





## 【編集後記 Fistera】

---

### 【編集後記 Fistera】

今年初の発行17号いかがでしたでしょうか？

正月を祝ったのも束の間、もう既に2ヶ月間が終わろうとしています。「今年こそは旅に」と毎年行けてなかったりしないでしょうか？もう今年の旅の予定を入れてしまいましょう。スケジュール帳に。そしてチケットも買っちゃいましょう。そこから逆算して今日からの計画を立てましょう。きっと旅に出れるはずです。と、自分に言い聞かせてます。

#### ●公式サイト

<http://brali.net>

○Brali Job バックパッカーだって働きたい。帰国後のお仕事探しサイト

<http://job.brali.net>

○Brali情報ノート 安宿のリアルでナウな情報ノートをウェブ上でみんなで作ってみんなでシェアする

<http://note.brali.net>

○旅イベントや旅ブログなど旅に関する新情報や更新情報をビジュアルで告知するサイト

<http://event.brali.net/>

そして、Facebookページもやってます！ぜひとも「いいね！」してください。

Twitterとは別の情報も掲載してますので。

<http://www.facebook.com/Bralimagazine>

さらには！NAVERまとめで旅に関することもまとめてますので、見てくださいね。

<http://matome.naver.jp/mymatome/kurinobu>

Brali Bizからセミナーを始める企画も準備中です。

「旅、インバウンド、アウトバウンド、海外」等のキーワードで独立や週末起業や

副業など検討の方向けに、その方面の識者や経験者などを講師に迎え、セミナーを企画しています。

皆様のご感想などもお待ちしております。ちょっとしたメモ程度でもかまいませんので、感じたこと気づいたことなどお送りください。

mailto:bralimagazine@gmail.com

<http://brali.net/toukou>

次号予告（2014年4月25日発行予定）

---

次号予告（2014年4月25日発行予定）

- テーマ「海旅山旅」
- Brali Biz 「旅」×「ビジネス」
- HANGOVER in the WORLD
- 特集 ベトナム
- エッセイ旅トキドキ・・・
- 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅
- 自炊派の手料理
- エッセイたびたべ
- アジア漂流日記
- 旅先の変な日本語
  
- （仮称）体験する旅

## 記事と情報および写真の募集要項

次回のBraliの発行予定は2014年4月25日です。

下記の記事や情報をお気軽にお寄せください。ご応募いただきました中から厳選して掲載させていただきます。

### ★記事および情報

■特集 ベトナム→2000字以内 バックパッカーの入門者にも向いてるベトナム。見どころも多く、文化面も充実してるベトナムについて。最近はトラブルが増えてるようですが。。。

■テーマ 「海旅山旅」→2000字以内 あなたはどっち派？サーフィン・スキューバ・リゾート・船旅などの海旅派か？それともトレッキング・大自然・絶景などの山旅派か？どちらかの魅力をお伝え下さい。

■（仮称）体験する旅 →Braliでは、観るだけや行くだけじゃなく体験する旅を推奨します。旅で体験したことを写真とともに記事にして送って下さい。例えばスペインでシェリーの注ぎ方マスター、インドで綿の収穫、モンゴルで羊の乳搾り、カナダでメイプルシロップ作り、海外日系企業で職業体験などなど。こんな体験してきたけど、どう？って教えてください。2000字以内。

■個人旅行のコモディティ →なんだかパック旅行でもないのに均一化する個人旅行。旅人の数だけ旅があるはずなのに、なんだかみんな同じ旅してない？「語学留学」、「世界一周」、「旅ブログランキング」のいずれかの内容であなたの考えを記事にしてお送りください。2000字以内。

### ★写真

#### ■Brali表紙用写真

特集の地域で撮影された写真を募集します。

### ★随時募集（掲載はいつになるかわかりません）

■旅で使えるデジタルアプリ →旅で役に立ったアプリを教えてください。

■HANGOVER in the WORLD →旅先での酒や酒場にまつわるショートコラムをお待ちしています。



■変な日本語→海外でよく目にする「変な日本語」。写真とどこで撮影したかを教えてください。

■海外支援団体などの団体さん、活動PRや支援募集などBraliに無料掲載いたします。取り組みなどのPRなどにご利用ください。

■海外ボランティアツアーや海外青年協力隊参加などの体験談を大募集しています。旅行では体験できないことや、秘話などをお待ちしています。

記事投稿および投稿に関するご質問はメールにてお願いします。

bralimagazine@gmail.com

投稿フォーム

<http://p.tl/Mi5K>

<http://bralimagazine.blogspot.jp/2011/11/blog-post.html>

奥付



Brali

●公式サイト

<http://brali.net>

○Brali Job バックパッカーだって働きたい。帰国後のお仕事探しサイト

<http://job.brali.net>

○Brali情報ノート 安宿のリアルでナウな情報ノートをウェブ上でみんなで作ってみんなでシェアする

<http://note.brali.net>

○Brali Circus イベントもブログの更新も旅に関することならなんでも拡散

<http://event.brali.net>

●Facebookページ

<http://www.facebook.com/Bralimagazine>

●NAVERまとめ

<http://matome.naver.jp/mymatome/kurinobu>

●mixiページ

<http://p.mixi.jp/brali>

●twitter

<https://twitter.com/bralinet> (Official)

<http://twitter.com/2moratorium>

【Braliの指針】

旅人は、旅をすることにより、その国や地域の人や文化に触れ、体験し、多様な価値観を知り、違いを理解し、享受することができます。

また旅に出てみるのが、日本や居住地などの良し悪しや文化、社会、諸問題を見つめなおすきっかけになります。

そんな機会と経験を無駄にせず社会に活かす旅人の可能性を信じています。  
旅人を増やし、旅に出る回数を増やし、旅に出る時間を増やすことを目的の一つと  
します。

そのためにも旅で得た情報や経験（インプット）を表現（アウトプット）する場と  
機会をメディアで提供し経験した人とは共有し、経験していない人へは追体験をして  
もらいます。

また旅での経験を社会に活かす（例えば仕事や起業あるいは社会貢献やボランテ  
ィアなど）仕組みづくりを行ないBraliも社会に寄与します。

編集：くりはらのぶゆき、Team Brali

発行：くりはらのぶゆき